

船形山

薬菜山



今年度の調査区

調査区遠景（東から）

# 古墳文化の集落でみつけた北方の文化



遺跡の詳細な解説動画  
はこちらから！

にしおか

かみおいのづか

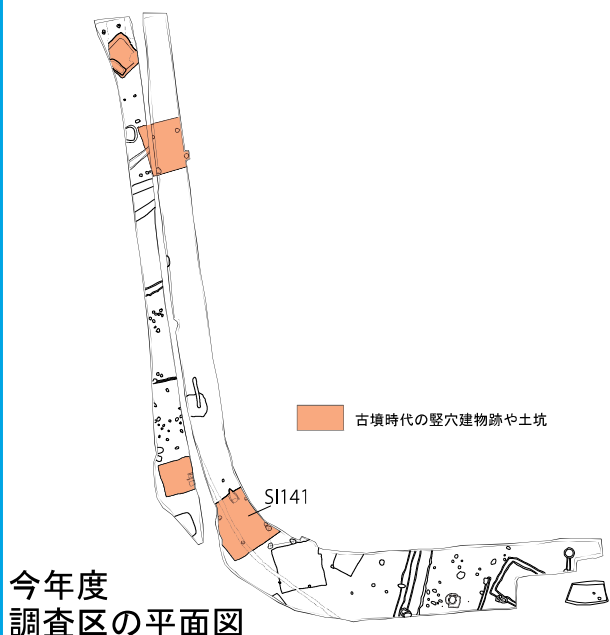
## ④西岡遺跡（加美町上狼塚）

加美町東部の名蓋川<sup>なぶたがわ</sup>左岸の河岸段丘<sup>かがんだんきゅう</sup>上に立地する古墳時代の集落跡です。

農道改良工事に伴う発掘調査が加美町教育委員会により令和2年から行われました。

調査の結果、5世紀頃の<sup>たてあな たてものあと</sup>竪穴建物跡などがまわってみられ、多数の土器や石器、石製品などの遺物が出土しました。

竪穴建物跡や出土品の多くは、古墳文化の特徴を示していますが、その中には同時期に宮城県北部から北海道に広がっていた<sup>ぞくじょうもんぶん</sup>続縄文文化に特徴的な<sup>こくよう</sup>黒曜石製の石器がみられます。このことから、当時の文化の交流を考える上で注目されます。



今年度調査区の平面図

旧石器 縄文 弥生 古墳 飛鳥 奈良 平安 鎌倉 室町 安土桃山 江戸 明治



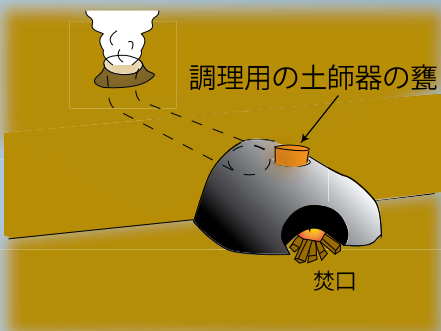
竪穴建物跡 (SI141) の平面写真

一辺が6.7mの竪穴建物跡 (SI141) の中央部分で、左右側は調査区外にのびています。平面形は四隅が角ばる方形をしており、北側にカマドが据え付けられています。古墳文化には、このような方形で北側にカマドが据え付けられる竪穴建物がみられます。

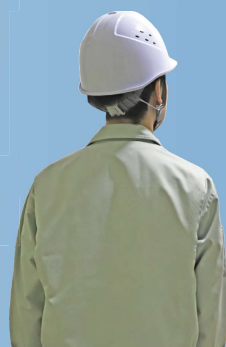


カマドの<sup>ねんしょうぶ</sup>燃烧部底面からは、カマドに据えた<sup>かめ</sup>甕などを支える台 (支脚) が見つかりました。

支脚は、<sup>はじき たかつき</sup>土師器 (高坏) の脚の部分を使用していました。



カマドのイメージ図



古墳文化を示す特徴としては、方形の竪穴建物や土師器の使用がみられるため、この遺跡に住んでいた人々は、古墳文化の生活様式を基本としていたと考えられます。

## 古墳文化に特徴的な出土品



直径8mmガラスの小さい玉（左）や白玉（中央に穴のあいた円盤状の石製品）（右）は、紐などに何個もつなげていました。



鏡をかたどったミニチュアの石製品です。



坏蓋の形をした須恵器の一部です。須恵器の製作技術は朝鮮半島から伝わりました。



つぼ壺の形の土師器です。

古墳の副葬品にもみられるガラスの小さい玉や白玉などの装飾品や須恵器、祭祀に使用された石製品が出土しています。また、多くの土師器が出土しています。

## 続縄文文化に特徴的な出土品



↑  
スクレイパー

黒曜石製の石器には、周囲に刃が付けられた搔器（スクレイパー）がみられ、動物の皮をなめす作業に使われていました。

この遺跡の人々は、古墳文化の生活様式を基本としながら、続縄文文化に特徴的にみられる石器を使用していたのかあ。



石器の使用は、儀礼品と砥石を除き、古墳文化にはみられず、北方の続縄文文化に特有です。